



# 秋田県内の映像制作産業の動向

# 荒 牧 敦 郎

(株式会社あきぎんリサーチ&コンサルティング チーフコンサルタント)

秋田県内では数々の映像制作企業が特色ある事業活動を行っており、最近、映像・アニメ制作の 拠点設置が相次いでいる。地域の魅力発信において、「ビジュアルストーリーテリング」すなわち「映 像を通じた物語の発信」が極めて有効であることを考えると、現在は秋田県という地域の魅力発信 に関して大きなチャンスを迎えていると考えることができる。

本レポートでは、県内の映像制作企業の動向を紹介し、その事業活動を生かした地域魅力発信の可能性について考察した。

## 1 国際教養大学の学生による起業

# (1) 「沼山からの贈りもの」

2021年3月7日・日曜日の夜、秋田市内のカフェで短編映画の上映会が開催された。上映作品「沼山からの贈りもの」は、横手市大沢の沼山地区でかつて栽培されていた伝統野菜・沼山大根の復活に取り組む3人の農業者を追ったドキュメンタリー映画である。クラウドファンディングによる資金で運営された上映会は羽後町など県内4市町で計5回行われ、この3月7日が最終回だった。「五感全てで秋田の伝統野菜と出逢い、『食』のあり方を見つめ直す」をテーマとするこの催しでは、映画に登場した3人の農業者がスピーチし、参加者には沼山大根を食材とする料理も振る舞われた。

「沼山からの贈りもの」は国際教養大学の学生だった京都府出身の栗原エミル氏と北海道出身の松本隆慈トラヴィス氏の2人が制作した。同作品は、全映協グランプリ2020最優秀賞・文部科学大臣賞、TOHOKU LOVE 2019 GAKUSEI MOVIE CONTEST 最優秀賞、東北映像フェスティバル2020大賞など数々の賞を受賞。栗原氏ら2人は、卒業後も秋田にとどまることを決意し、2020年

12月に秋田市雄和を拠点として映像制作企業・株式会社アウトクロップを設立した。

## (2) 映像・アニメ制作の拠点設置の動き

秋田県内では、実写映像を制作する株式会社 アウトクロップの設立以外にも、2020年4月に、 アニメ制作スタジオ2社が秋田市に本社移転、 設立されるなど、このところ映像制作に関連す る企業の新規立地が相次いでいる。

※アニメ制作スタジオの動向については、本誌今月号のトピックス「秋田県内のアニメ制作スタジオの動向」で取り上げています。

本レポートでは、このような映像制作に関わる新しい動きに注目し、実写やコンピュータグラフィクスに関する秋田県内の映像制作産業の動向について紹介し、映像を通じた地域の魅力発信について考える。

#### 2 映像制作企業の動向

# (1) 株式会社アウトクロップ

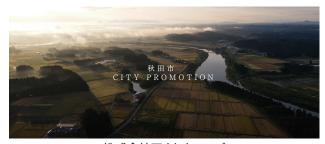
株式会社アウトクロップは、前述のように国際教養大学の学生だった2人によって設立された企業である。「アウトクロップ(outcrop)」という言葉は、大地深くに眠る鉱石や原石などを

地表へと掘り起こすことを意味する。大地に覆われた「見えない」原石を見つけ出し、掘り起こし、今まで「見えなかった」物語を映し出し、「魅せて」いく。社名にはそんな意図が込められている。

「見えない」原石、「見えなかった」物語とは、地域の中にありながら日の目を見ずに眠っていた価値、目に見える現象の背景にあるもっと大きな状況、人の生き方や考え方を差す。栗原氏ら2人が沼山大根の復活に取り組む活動を追う中で見たものは、人口減少と高齢化が進み限界集落化が進む地域の状況や、それによって失われようとしている伝統野菜という価値、大消費地向けの農業とは一線を画す農業のあり方などの大きな物語だった。「沼山からの贈りもの」が数々の賞を受賞したのは、対象を丹念に追う取材や美しい映像を実現した撮影テクニックもさることながら、映像を通じてそのような大きな物語を描き出すことに成功したからだと言えるだろう。

アウトクロップは、地域に眠っている価値の 一つとして鳥海山麓の地域で伝承されてきた 「釜ヶ台番楽」を取り上げた。ここでも、人口 減少が進む地域の中で郷土芸能を守るため番楽 に関わっている人々の姿に焦点が当てられた。 その中心には、地域への誇りを持ち「自分がや らないと番楽が地域から失われてしまう」とい う意識で活動する男性がいる。彼は、年長者や 子どもたちの間に立って世代間のつながりを築 きながら、伝統を守りながらも従来は許されて いなかった女性参加の道を開くなど時代に合わ せた変化を創り出している。

また、男鹿市を舞台にした長編ドキュメンタ リー作品には2年越しで取り組んでいる。秋田 の日本酒に惹かれて県外からやってきた男性が 県内の酒蔵で修業した後に、無農薬、無肥料の



株式会社アウトクロップ 地域プロモーション映像

米を原料とし、米を削らないで造る日本酒を世に問う酒蔵を立ち上げようとする姿を追う作品である。この作品では日本酒造りの理想を追求するというテーマの背景に日本酒造りを巡る様々な規制などの問題が描かれる。

同社の事業は、これら沼山大根や釜ヶ台番楽などを取り上げた自主制作作品に、地方自治体や企業を顧客とするクライアントワークを加えた二本の柱から成っている。

クライアントワークとしては、企業向けでは、 企業ブランディングやプロモーション映像、人 材採用のための映像などがあり、自治体向けの ものは、観光や自然公園の振興、移住促進など の地域プロモーション、再生エネルギーを考え る教育用映像などを制作している。

移住促進に関する映像に関して、同社は一つのスタンスを持っている。それは、良く見せるのではなく、ありのままの素顔を見せるというスタンスである。どの地域にも魅力はある。それを映像で伝えることで、人と地域のマッチングを実現したいと考えている。

アウトクロップは設立からまだ1年未満にもかかわらず、美しい映像やドローン撮影を取り入れた独自のスタイルを持つ自主制作作品、クライアントワークにより、県内の映像制作の分野で大きな存在感を示している。

同社は今後の展望として、秋田市の中心部に 築120年の古民家をリフォームした映画館の建 設を企画している。規模は20~30人の小さな 映画館であるが、アウトクロップが制作した映像作品だけでなく、日の目をみていないが大切にしたいヒト、モノ、コトを収集・選別して紹介する場とする予定である。

そして、この映画館にバーを併設することで、 映画を見た後に対話が生まれる仕組みを作り、 秋田のアートシーンを豊かにしたいという狙い が込められている。

アウトクロップの活動、事業を語る上でキーワードとなるのが「ビジュアルストーリーテリング」である。これは、「映像を通じた物語の発信」という意味である。例えば、地域やそこで生活、活動する人々の魅力発信の手法として、ビジュアルストーリーテリングが非常に有効であるという事実が広く認められるようになってきた。秋田を拠点とするアウトクロップの事業活動は、秋田という地域の魅力の発信にとって大きな可能性を開くものとなるだろう。

#### (2) 株式会社東北映像秋田

秋田市に本社を置く株式会社東北映像秋田は 2007年10月に設立された。ただし、それ以前 から岩手を本社とする企業の秋田における拠点 として事業を継続しており、30年近くに渡っ て映像作品を企画・制作している。

同社の主要事業は、テレビCM、テレビ番組、Web用の企業プロモーションビデオ、地方自治体の観光PRの制作などから成っている。テレビCMは主に県内企業を顧客とするもので事業に占める比率が大きい。また、日本を代表するような大企業のCMにおいて、同社が県内の撮影を担当する場合もある。テレビ番組制作には3本のレギュラー番組を含み、好評を得て長期間に渡り続いている番組もある。また、テレビCMと同様に全国放送の番組で秋田における撮影を担当するケースもある。全国で放送されるCM等において同社が撮影を任されるのは高い



株式会社東北映像秋田 テレビCM映像

撮影技術が評価されてのことと考えられる。

企業プロモーションビデオの内容としては企業PRや人材確保のためのリクルート用の映像がある。Webでの動画配信が拡大する中、若い人がスマホ等でWeb動画を観ることが増えていることを背景として、Web用の企業プロモーションは増加傾向にある。そのような企業プロモーションビデオの中には、世界的なIT企業のPR映像を同社が制作した事例もある。

県内市町村などの地方自治体の観光PRに関する事業では、同社が撮影を担当した「花火のまち」大仙市を世界に発信するプロモーションビデオが、東北映像フェスティバル2018映像コンテストにおいて、「地域振興コンテンツ部門」大賞を受賞した。

同社事業の技術的な特徴として、映画やCMなど高画質の映像を制作することができる高性能な編集システムを用いていることが挙げられる。このシステムは非圧縮(圧縮しない)の映像データを扱うことができる。データ量の多い非圧縮の映像を処理するパワーを備えた編集システムにより、4Kなど解像度が高く色彩の情報量も大きい高画質な映像加工を速く処理することが可能となり、様々な映像表現を試みる可能性が広がった。

また、同社は撮影用のカメラに関して独自の ポリシーを持っており、自社ではカメラを購入 せず仕事の都度レンタルしている。

それは、テレビ番組やCMなど仕事の内容によって求められる映像の質や特性が異なるため、様々なカメラを所有するよりも仕事の内容に合った種類のカメラを都度レンタルする方が合理的だという考えに基づいている。言い換えると、様々な仕事で求められる特性の映像を創り出すには、多様な種類のカメラを社内で持つよりも、様々な要求に対応して様々なカメラを使いこなすスキルを保有することが、より価値のある経営資源であるという考えである。

同社はそれを「ベストシステムで1コンテンツ」と表現している。すなわち、「一つ一つの作品に合わせて、最新かつ最良の機材を選択しながらワークフロー(業務の流れ)を構築する」というコンセプトである。

この事業コンセプトは、同社のマーケットに対する見方も関わっている。同社の事業はかつてCMが大きな割合を占めていたが、東日本大震災の際にCM制作の仕事が一気に落ち込むという経験をした。この経験からバランスの取れた事業構成を築く必要性を意識するようになった。また、最近のWebの進化が今後も継続するという予想からWeb用の映像制作に力を入れるとともに、CM等の高品質な映像を含め求められるどんな特性の映像でも制作できるスキルを進化させ、どこの地域の仕事にも対応可能な基盤を創り、より多くの人に観てもらえる映像制作の進路を開こうと考えている。

# (3) 株式会社ゼロニウム

株式会社ゼロニウムは、個人事業主を経て2007年に秋田市で設立された。アウトクロップと東北映像秋田が実写映像を制作するのに対して、同社は3DCG(3次元コンピュータグラフィックス)映像を制作する企業であり、主要事業はXR(仮想現実)、プロジェクションマッ



株式会社ゼロニウム プロジェクションマッピング(安比高原スキー場)

ピング、インタラクティブアート・コンテンツ 等の制作である。さらに、同社はゲームのデー タ制作やCGアニメ制作、テレビ番組・CM等 のコンテンツ制作も行っている。

XRの一分野、VR(Virtual Reality)は、ヘッドセット(VRゴーグル)をかぶり、視界すべてがCG映像で覆われることから現実に近い没入感が得られるものである。ゼロニウムは、この分野の事業として大分県防災VRを制作した。これは部屋の中に土砂が流れ込んでくる災害をはじめ、地震と津波も疑似体験できるものである。また、「秋田市津波シミュレーション」では津波被害をCG映像で表現した。いずれの映像もVRやCGシミュレーションならではの迫力ある体験が可能となっている。

プロジェクションマッピングは、建物の壁面など凹凸のある立体物の表面にプロジェクターでCG映像を投影する技法である。同社が制作したプロジェクションマッピングは、国民文化祭・あきた2014の開会式や「秋田幻燈夜2014」など様々なイベントで活用されている。プロジェクションマッピングを制作できる企業は、東北でも少ないことから、「八戸ライトショーフェス2016」など県外でも使われており、安比高原スキー場など冬場の集客にも効果を発揮している。

インタラクティブアート・コンテンツは、セン

サーを使って観客・参加者の動きや接触に反応 する映像を映し出すものである。同社は観客・ 参加者との双方向性を持つインタラクティブアー ト・コンテンツの特性を活かした医療福祉分野 への参入を進めている。

例えば「デジレク」は同社が秋田県理学療法 士会の協力のもとで開発したレクリエーション ソフトであり、壁面や床面のセンサーとプロジェ クターを連動させてボールの接触に反応する 映像を表示できる。「デジレク」の一つ、「屋台 の射的ゲーム」はスクリーンに投影された3D CGによる的のお菓子に参加者が投げたボール が当たると、それをセンサーが検知して映像中 のお菓子が倒れる動きをする。この「デジレク」 はリハビリテーションにおいて、運動能力の改 善や認知症の予防を狙いとしている。また、同 社は「デジタルヘルスケア秋田モデル創出事業」 として、県内企業の株式会社アルファシステム および株式会社サノとともにデジタル技術を活 用したヘルスケア分野の事業に着手する。この 事業でゼロニウムは、インタラクティブアート・ コンテンツの技術を活用してフレイル (虚弱) 予防や健康増進のためにストレッチなどで柔軟 性の向上を図る「運動デジタルアミューズメン トプログラム」を開発する。

ゼロニウムは今後の展望として、この双方向性を持つインタラクティブアート・コンテンツおよび、XR分野は同社が優位性を発揮できる分野であり、中心的な事業にしていきたいと考えている。

# 3 地域からの映像発信の可能性

## (1) Webによる動画配信の拡大

昨年から続くコロナ禍の状況において景気の 不透明感が増し、民間企業のテレビCM出稿が 減少していると指摘されている。テレビCMの 減少はテレビ局収入の減少にもつながるため、 テレビCMおよびテレビ番組の分野での映像制 作はマイナスの影響を受けることになる。

一方で、Webによる動画配信は増加傾向にあり、テレビ以外の媒体を利用した映像発信の可能性は拡大している。通信回線の大容量化、高速化と情報機器の処理機能の飛躍的向上により、YouTubeなどWebによる映像発信はもはや一般市民にも開放された情報発信手段となっている。

このような状況は、地域からの情報発信を考 えると手段の多様化、発信コスト低下などの恩 恵と考えることができる。

## (2) 地域からの映像発信の可能性

秋田県内では、本稿で紹介したように特色ある映像制作企業が事業を行っており、また、アニメ制作も含めて制作拠点の新規立地も続いている。これをWebによる映像発信の可能性拡大と考えあわせると、秋田県から地域の自然、文化やそこに生活、活動する人々の魅力を発信するうえで大きなチャンスと考えられる。

映像は言葉や数字を超える表現力を有しており、地域や国境を越えて伝わっていく発信力を有している。自然景観や街並みの美しさ、人の踊りや所作の動き、言葉や祭りばやしの響き、これらを伝える時、映像は最大の力を発揮する。

株式会社アウトクロップの事業でキーワードとなっている「ビジュアルストーリーテリング」という考え方、すなわち地域の魅力を発信するうえで「映像を通じた物語の発信」が極めて有効であるということをもう一度思い起こすと、今こそ地域で活動する各映像制作企業の特色あるスキル・能力を活かして、秋田県という地域の魅力発信を強化していくことが重要である。